

審査意見(二次審査)への対応を記載した書類

【第一薬科大学】

<全体について>

- ① ・「学科等の目的・性格と免許状との相当関係に関する審査基準」（平成23年1月20日課程認定委員会決定）（手引 P178 参照）の1. ①及び③、④、2. （1）①及び④に関し、今回の申請学科の学位分野、教育研究分野と認定を受けようとする免許状との間の相当関係について、未だ疑義が解消されていない。
- ・「教科に関する専門的事項」の科目名称・内容について、薬学としての情報ではなく、教員免許状取得に係る「高等学校の情報」の教員養成に必要な内容を取り扱っているかが判然としないため、科目名称・内容を全体的に見直すことも含めて検討すること。
- ・「教科に関する専門的事項」を担当する教員の業績について、「高等学校・情報」の教授に当たって必要となる情報学に関する専門性及び業績等が判然としない場合が見受けられるため、「高等学校・情報」の教員を養成することを念頭においた教員組織を検討すること。
- ・上記の対応の際には、併せて学科プログラムとの相当性にも配慮の上、様式第7号において説明するとともに、各様式の修正を行うこと。

(対応)→	・本学薬科学科は「薬学」と「情報科学」の知識を融合し、医療や薬学分野におけるデータサイエンスの活用を基盤にしています。特に医療データ科学コースでは、医療・健康に関する実践的なデータ解析能力と情報科学の高度な知識を習得できる教育を提供しており、これにより高等学校の「情報」科目においても医療・健康分野での応用が可能な実践的スキルを備えた教員を養成することができます。この点で、学位分野と免許状との間に相当な関係性が確保されていると考えています。また、データサイエンスの基礎から応用までを網羅する一連のカリキュラムを整備し、「データサイエンス数学」「プログラミング演習」など、情報科学の基本から応用スキルまでを段階的に習得できる科目群を提供しています。これらの科目は「高等学校・情報」の教育に必要な知識体系や実践的なスキルも涵養できる内容です。さらに、これらのカリキュラムを通じて学生は、デジタル技術、プログラミング、医療データ解析、情報セキュリティに関する知識を修得し、情報
-------	---

	教育分野でも即戦力となる教員としての専門性を身に付けることができます。さらに、本学科の教育プログラムでは、医療データの倫理的取り扱いやセキュリティ対策についても教育を行い、情報社会で重要な「情報倫理」の視点を持つ人材を育成しています。このように、薬科学科における教員養成プログラムは、情報化が進む現代社会に対応した教育者の育成を可能にするものであり、申請学科と免許状との相当関係がより明確に示される内容となっています。これらの点を踏まえ、申請書を訂正しました。 ・ 本学では、高等学校「情報」の教員養成に必要な内容に基づき、教科に関する科目名称の見直しを行いました。本学の情報教育プログラムは、高等学校「情報」の指導に求められる知識とスキルに整備されています。プログラム内で学ぶ情報科学の技術や基礎知識は、医療・健康データを活用し、実践的なデータ分析や問題解決能力を育むことを目的としています。特定の薬学分野に特化した情報科学教育ではなく、高校情報教育の専門的内容を確実に身につけられるように設計されています。これらの点を踏まえ、申請書を訂正し、科目に関わる学則（令和7年度4月以降）を変更しました。 ・ 「高等学校・情報」の教員養成に必要な情報学に関する専門性を有する教員の配置を強化しました。 ・ 薬科学科プログラムと教職課程の整合性を確認し、「高等学校・情報」教員養成に必要な情報学分野の教育が効果的に組み込まれているか再検討しました。薬科学科の教育内容が、情報教育に必要な基礎的かつ専門的な知識を適切に涵養できることについて、様式第7号に具体的な説明を加えました。さらに、必要に応じて関連する様式の修正も行いました。（p77-78、p79-249、p254-266、p267-272）
--	---

②

(対応)→	
-------	--

③

(対応)→	
-------	--

④

(対応)→	
-------	--